

運命の羅針盤

宇宙から与えられたプログラム

神託主 - 「Yemochikazor」

著者・神託者 あとり

翻訳 風杜ことり



天



人



地

神託主 ―「ECONOMIZER」

言葉を与えるモノ

運命の流れを知り、答えるモノであり、星の意識

神託者 ―「あとり」

神託を受け取る受容体

運命を肉体を通して語り、星の意識を紡ぐもの

翻訳者 ―「風杜ことり」

本書の監修と受容体の保護者

神託主と神託者を結ぶ役割を持つ

「最初に本を手にした皆様へ」

最初に本を手にした皆様へ

神託者 - 「あとり」

神託主 - 「εὐαγγελιστής」

詩篇 - 神託の始まりの物語

時を待つ者、統べるもの

厭わぬ者に交わりし差し出すものなかれ
今と昔の間にあつて
誰しもが死と生を望む世界

我が汝に問う
見えぬもの
云えぬもの

信じる火の物語

翻訳者 - 「風杜ことり」

最初に本を手にした皆様へ

この本は運命を知る上で最も重要な手がかりが隠れています。
とても難解であり、少々読みづらい内容になっています。

こちらの本は予め調べられた内容を記したのではなく「今、この瞬間を示した」ものになります。

内容を深く読み、より鮮明に解読していく必要があるかもしれません。

ご挨拶が遅れました。

本の著者の一人で風杜ことりです。

長い間、運命についての探求をあとりと共にしてきた一人であり、生命の源について追い求めてきました。

あとりについては、後ほど紹介していきます。

まずは、この本が何のために描かれたのかを知る必要があります。

神託者 - 「あと」

詩篇Ⅰ 神託の始まりの物語

私はただ書き留めているだけ……

無意識から与えられた星の意識を書き留めているだけ
神託という言葉の通り

私には神から与えられた不可視の言語を翻訳している
かつて、モーセやノアが神から声を預かったようにして
私は自らを水晶体になる

この宇宙の形成の全てをここに書き記す

意味はない

私の声を聞こうとする全ての人たちへ

神託者 - 「あとり」

発現された世界への扉

一般的な本の印象は、物語を通じて世界観に入り込んだり、知らなかった情報を手に入れられたりと、二通りの情報が入っているものになるのではないのでしょうか。

本は作者によつて伝えたい目的が明確で、テーマに沿って描かれているものになります。

私がこれから皆様にお伝えしたい内容は、私にもわかりません。

本の内容がどんな風に描かれていくのかが見えていないからです。

テーマは運命についての路線からは離れていないものだということ。

こういった書き方をされている本は他にはないのでないでしょうか。

この本が描かれていく世界は、私の中にはなく、私の内側から表現されていく世界になります。

何のことかさっぱりわからないかもしれません。

詩篇Ⅰ 運命の軌跡

運命を知ること

運命とは宿命論ではない

ここで述べている運命とは成り立ちを示している
運命という書物のようなものがあつて

未来の内容が描かれている日記ではない

運命は簡略化されて書かれ日記よりも複雑で

決して約束された未来が待っているわけではない
運命の構造を知ることとは

自己を作る上で必要なものになるだろう

神託者 - 「あとり」

神託主 - 「ἑσόμεθα λείπει」

神託者 - 「あとり」

翻訳者 - 「風杜ことり」

本の内容は全てが自動筆記で書かれています。

今、この瞬間に皆様が必要としている言葉がこの本には描かれています。

人生の大事なプロセスと今後の展開が記された本になります。

なぜ？ 私が本を書くのか……その理由は、与えられたからです。
どんな物語が展開されていくのか楽しみですね。

この本は「神託者」あとりの口伝を記憶したものです。

あとりが星から与えられた神託を翻訳者ことりが書き示したものになります。

読みづらい文や読めない言語が出てくるのは、与えられるままに「あとり」が言葉に翻訳して残した内容になるためです。

．．．．．目次．．．．．

最初に本を手にした皆様へ	．	．	．	．	．	．	．
伝えられる言葉	．	．	．	．	．	．	．
運命の螺旋	．	．	．	．	．	．	．
種子は万物から生まれて、万物は種子から生まれる	．	．	．	．	．	．	．
運命の系をつなぐ	．	．	．	．	．	．	．
出生日で運命は定められる	．	．	．	．	．	．	．
三層に分かれた運命	．	．	．	．	．	．	．
出生日からわかる運命	．	．	．	．	．	．	．
97	83	57	35	25	19	13	3
137	95	81	55	33	23	17	9

．．．．．目次．．．．．

太陽のプログラム．．．．．	鍵のかかった部屋の中．．．．．	鍵のかかった部屋．．．．．	改めて運命とは．．．．．	現実と非現実．．．．．	出生日から与えられた個人識別情報．．．．．	0と1から始まる運命のプログラム．．．．．	運命の原理．．．．．
235	225	215	199	189	177	159	139
247	233	223	213	197	187	175	157

· · · · · 目次 · · · · ·

- 宇宙を体現した図 -

1	63	61	47	48	10	3	27
58	19	13	37	7	41	49	36
29	15	53	62	11	51	18	21
39	30	14	2	59	32	20	64
23	25	8	9	60	55	24	56
46	34	26	43	38	28	40	5
42	17	35	44	33	31	52	6
22	57	50	16	4	12	54	45

運命とは宇宙の流れで作られています。

地球、月、太陽、惑星……銀河の渦が私たちを次の時代へと運んでいます。

巡る時代の中で、何を信じて、向かう先を知っているのは宇宙全体からなる信号です。宇宙からの信号を受け取って、進化していくことが私たち「生命」の使命なのです。

宇宙のプログラム

惑星のプログラム

[illegible][illegible]

255
+
261

$$\begin{array}{r} 249 \\ + \\ 253 \\ \hline \end{array}$$

「伝えられる言葉」

神託者 - 「あとり」

神託主 - 「ἐκκονετῆρ»

詩篇「伝えられる言葉」

伝令を受容するもの

継ぐ意思のあるもの

名も無い空の肉体に宿りし無の世界
声もなく音の届かぬの深い流れの中

私という普遍の意識の重なりを求める

伝令に従い

空虚な器を貫き受ける

神託者 - 「あとり」

自動筆記（オートタイプピング）

前書きの方でもほんの少し述べましたが、私がこうして伝えている言葉の全ては私ではなく、私に与えられた言語を伴わないものを言葉にして訳したことになります。

自動筆記（オートタイプピング）といって、知らない世界の出来事や過去や未来に関わる内容のお知らせを記したものです。

なので、私にも実際のところ、この本が何を表していて、誰のためのものになるかはわかりません。

本を受け取った人で、私が記した世界を読むことのできた人が本を必要としている人になることでしよう。

自動筆記という表現をしていますが、ここではわかりやすい呼び名の総称として記載しています。

私が見えている世界は、単に自動筆記の範囲に入るのかどうも未知数です。

神託者 - 「あとり」

神託主 - 「ἐκὸν ἐκλάζω»

詩篇 - 言葉を預かるモノ

意識と無意識は私たちが生まれるずっと前からある

命の仕組みを知る手がかり……

私は声を聞く

与えられたまま声を聞くもの

生まれるよりも遙か前より響く声は

私に命の意味を与えてくれる

無意識の根底から鳴り響く音の列は

全てを教えてくれる

すなわち、私は神の声を聞くもの神託者

神託主 - 「*κόμης τῆς πόλεως*」

自動筆記で見えている表面的な世界の先にある世界とアクセスコードを結び、映像、音、感覚、振動を人の言葉にわかるように言語化したものが、私が見せている世界であり、あたりは媒介者として存在しています。本の世界はこの世界とは異なるルートを経由して綴られています。

古来から自動筆記を別の呼び名をすることがあります。

それが「神託」です。

神託とは人の住む世界にあらず、統一性のある不安定な領域といつてもよくわかりませんね。

目に見えない予知を、神と呼ぶ人もいるかもしれませんが。

さあ、私は誰でしょう。

今はあとりに言葉を預ける者とだけ紹介しておきます。

世界を作り、この世界を破壊するもの……両方の性質を持ち、運命を見るもの。私があとりとしての肉体を通して感じ取る全てのエナジーを言語化して、本を手にとった人たちに必要な言葉をお届けしたいと思います。



人は「太陽」人は「する」人は「自分」人は「意志」
自らの行動に基づいて動くものが人（ジン）であり、すなわち
神（ジン）となります。内側にある真の答えと向き合うと必ず
道はひらけてきます。

「運命の螺旋」

詩篇Ⅰ運命の螺旋

キの集いし鏡の中

意味知らずものが求める小さな旅人
闇と光が一つになって

月の隔たりに閑話する

弓の如く放たれた時の雫は
やがて大きな大河となして
私たちを呑み込もう

闇よりもいでし深きものの声に耳を傾け
一条の吐息が
次の世代をつなぐ
千三な糸となろう

神託者 - 「あとり」

神託主 - 「ἑσόμεθα ἑλπίς」

神託者 - 「あとり」

神託主 - 「ἑσόμεθα λείπει」

運命の多重構造

運命は螺旋状になって作られている。螺旋の数は命の数に等しくあり、根源的に種と同等の意味を持っています。

時として生命と生命に準じる時間の流れにも同じくあり、命の種の波紋の全てに運命は宿っています。

難しい表現で示しても、答えは単純なものです。私という存在がいて、私という存在の一つをあなたという存在が持っています。

私の一部があなたの運命の一部となって働いていて、私にとってもあなたの一部が私の運命を動かしているからです。とても哲学的な表現に聞こえるかもしれませんが。

最初は何のことを言っているのか見当もつかないのではないのでしょうか。それでいいのです。運命という多重構造をすぐに理解できるものではありません。